

家庭科の男女共修をすすめる会

# 会報

'82 冬

連絡先

東京都渋谷区代々木2-21-11  
婦選会館内

〒151

振替 東京九一 一九一八九一

発行 一九八二年二月一八日

## みんなで一步の前進をめざして

新潟 小野塚 サチ子

新潟高教組婦人部女子教育問題研究委員会の、教師、生徒を対象とした調査では、「共修に基本的に賛成」七七・八%（家庭科教師七九・八%）。

共修実施校がふえないという悩みはあるものの、教研での家庭部会、組合全体の取り組みの結果だと思えます。

共修へ向けての資料もNo3までまとまり、あとはもう実施のみ。

その一步がなかなか踏み出せないのですが、家庭科教師のふんばりと他の人びとのバックアップで実現しやすい所からひろげて行きたいと思えます。

「案ずるより産むがやすし」という実施校の報告もあります。

ここまで来たら、あと一步。みんなで一步をめざしがんばります！

### 授業参観のおしらせ

とき 一九八三年一月一八日(火)

午前一〇時～正午

ところ 昭島市立瑞雲中学校・被服室

(青梅線昭島駅から徒歩一〇分)

内容 中学三年・男女共学・「保育」

——人間の成長と発達——

(五〇分授業のあと、話し合い)

授業者 武市成子 参加費 二〇〇円

※地図は16ページにあります。

## もくじ

みんなで一步の前進をめざして.....	(1)
授業参観のおしらせ.....	(1)
一〇・一六集会報告.....	(2)
優生保護法改悪の動きについて.....	(3)
連絡会よりの報告.....	(4)
中教審会長・委員を訪問.....	(4)
会長・高村象平さん.....	(6)
委員・柏木恵子さん.....	(7)
ただ今研究中(全高長、家庭部会).....	(8)
教科書検定に関して要望書.....	(8)
家庭科共修主婦雑誌に登場.....	(9)
総合雑誌では.....	(9)
「We」の現状.....	(9)
世話人会報告.....	(10)
全国消費者大会へのとりくみ.....	(11)
各地域から.....	(11)
熊本県・消費者運動と連帯して.....	(12)
石川県・指導主事と面会.....	(13)
神奈川県・婦人総合センター開館.....	(14)
東京都・「婦人施策」答申.....	(15)
県・区へ要望書.....	(15)
資料・図書紹介.....	(16)
授業参観に参加される方へ.....	(16)

# 一〇・一六 集会報告

テーマ 男女平等問題に関する国会レポート

報告者 国連婦人の十年推進議員連盟副会長  
参議院議員 沓脱タケ子さん

司会 和田 典子  
馬場 洋子  
記録 半田たつ子

この集会の講師は、推進議員連盟会長、石本茂氏にお願いしてありましたが、突然のおさしかえから、急拠沓脱氏が代行されることになり、はるばる大阪から駆けつけて下さいました。

## 報告要旨

国連婦人の十年推進議員連盟は、78年4月結成され、いま会員二百名余、男性も入っている。中間年世界会議に、差別撤廃条約の署名を添る政府に働きかけ、ようやく決意させ

たのはいまも記憶に新しい。差別撤廃条約を批准するために、しなければならぬことは、国籍法、労働、教育の三つに集約されている。国籍法は、法制審議会が81年6月発足し、今年10月ごろまでに答申を出す予定だったが、最近テンポが鈍り、来年1月ごろにずれ込む見込みだ。答申が遅れると国会上程も遅れ、放っておくことができなくなっている。労働も、婦人の特別保護の扱いが問題であり、雇用における男女平等法も、ここ一年が正念場である。

だが、右の二点に比して、一層厳しいのが教育である。家庭科の男女共修は、単に一教科の問題にとどまらず、人類の発展史の中で方向を示したものだと思うが、文部省は諸外国を調査すると、日本はむしろ進んでいる、教育に関しては法制上は何の問題もなく、行政指導でよい、しかも批准のために最少限のことをやればよい、という姿勢である。

その他、国会において取り組んだのは、ベビーカー問題を中心審議し、育児休業法を民間を含めて全職種にということと動いてい

## 泉恵子さんの感想

私は「優生保護法改悪」憲法改悪と闘う女の会の一員として、主に優生保護法改悪の動きについて国会議員からの報告を聞きたいということ、報告者として予定されていた石本議員が、改悪をすすめている自民党の議員であり、同時に改悪反対を表明している看護協会をバックにもっているということで石本議員の立場からの意見を聞きたいと思って参加しました。その意味では、報告者が共産党の沓脱議員に交代されたことは少々残念でしたが、「共修をすすめる会」の活動について改めて知る機会ともなり、「国連婦人の十年」推進議連の成り立ちとその性格がもつ限界性について始めて知ることができました。優生保護法改悪の動きについては、私たちの側で集めた情報と大差なく、改悪策動の不気味さに改めて危機感をもったこと、また改悪阻止にむけて国会外での改悪阻止運動をつくりあげ、その上で国会議員をつきあげていくことの必要性を強く感じました。

る。優生保護法改正については、厚生省は次の国会に出す準備をしているが、産婦人科医からは改正をしないようにとの要望が届いている。行政改革、臨調の問題にかかわって、総理府婦人問題担当室や労働省婦人少年局の廃止・統合が示された。直ちに攻撃がかけられているが、差別撤廃条約批准に向けて、一番力を入れなければならない時に、行革・臨調を持ち込んで気をそらすとするものだ。婦人の地位向上、真の平等確保のために、行革の犠牲にされないよう奮闘しなければなら

われないものだ。

△問▽優生保護法改正を、改憲とあわせて打ち出しているのは、まさに右傾化の現れではないか。

△答▽議連では、まだ正式には取り上げていない。議連で取り組むのは少し難しいかもしれない。改正論者は、十代の人工妊娠中絶が非行と絡んでいるというが、中絶を厳しく規制すれば十代の中絶がなくなるわけではない。これは文化の問題、教育問題である。日本母性保護医協会は、正確に改正反対理由を表明しているが、優生保護法改正決議を地方議会が行ったりしている現状がある。

△問▽性が商品化している中で、女の子だけを責めるのは酷だと思ふが。

△答▽その通りだ。買春防止、トルコ風呂の規制などは、自民党の賛同が得られないでいる。

沓脱氏は、議員連盟の立場で話し、答えられました。そのために話されるほうも、聞くほうにも一種のもどかしさがありましたが。議員連盟から要望を出す時は、全会一致なので、最大公約数しかできない。けれども議員連盟事務局長、田中寿美子氏に連絡し、短時間での絞れば、議連の人の話し合いは難しいことはないもので、こういうことを取り上げてほしいとの要望を出すことも大切だと言われました。

## 質疑応答

△問▽育児休業法を全職種に広げるといふが、女子だけを対象とするのか、男女共にか。

△答▽各党派で用意しているものには、男女共に、というのもあるが、議連ではまだそこまで意思統一ができていない。

△問▽労働基準局の岡部局長が、男性の時間外労働(月)50時間を、女性にも及ぼす、と言ったとのことだが……。

△答▽議連としては、その点に関して相談していない。男子の残業時間、月50時間というのは行政指導だから、きかなくとも一向に構

## 優生保護法改悪の動きについて 会員の皆様も関心を

芦谷 薫

今年の三月、国会予算委員会においてこの問題が論議されたこと、新聞の小さい記事を見た時は、扱いの小ささに影響されて、「何だか変な動きだな」という位で済ませていました。しかし、最近の右傾化の一連の動きを考えると、これは「産めよ増やせ

よ」の戦争準備体制への布石と考えられます。多くの人がこの問題にも関心をもっていかないとたいへんなことになるでしょう。この問題にとり組んで行きたい団体が集まって「82優生保護法改悪阻止連絡会」をつくって情報交換を教えてください。

連絡先 東京都新宿区若葉1の10 グリ

ンマンションD号ジヨキ気付  
電話 〇三・三五五・〇四二九

# 国際婦人年日本大会の 決議を実現するための 連絡会よりの報告

和田 典子

## 五政党の 婦人政策を聞く会

さる九月一六日午後一時半～五時、参議院議員会館会議室で、自民、社会、公明、民社、共産の五政党から婦人政策をきく会がもたれました。

連絡会の四八婦人団体側からは約一〇〇名が参加し、次の五項目について話をききました。

1. 育児休業法案
  2. 母性保護と男女雇用平等法案
  3. パートタイム対策
  4. 臨調基本答申と婦人関係対策
  5. 家庭科の男女共修問題
- 政党側の出席者は、

自民党国連婦人の10年に関する特別委員長  
石本茂氏  
日本社会党婦人対策委員 田中寿美子氏  
公明党婦人局長 柏原ヤス氏  
民社党婦人対策委員長 加藤綾子氏  
日本共産党児童・婦人局長 山中郁子氏  
で、司会は鍛冶千鶴子、中村紀伊の両氏。

あきらかになった主なことから

### ◆育児休業法案

法制化については五党とも一致して準備中ですが、自民党は母にのみ、他党は父母ともに適用することを考えています。

また、休業中の賃金は無給が、自、公、民の三党、社、共は有給で、満一才まで、不利益扱いしない、職場復帰ができること、有給などを原則とし、これが守られれば超党派での法案づくりも拒まない態度。自民も第98通常国会で提案したいと積極的な姿勢でした。

### ◆母性保護と雇用平等法案

母性保護と男女平等を統一して把える立場は共通していますが、保護の内容については一様ではありません。ガイドライン尊重(自民)産休を十週に(公明)有給で八週(社・共)前八週・産後九〇日(民社)など。また、民社は母性保障基本法によって妊産婦援助の

拡充に努めるほか、社会は出産給付保障を、共産は母性保護拡充と雇用平等法をセットで提案する方針です。

男女雇用平等法については、自民以外の四党は法案又は要綱を作成していますが、内容的には、差別的救済では一致してもその機関や設置方法は異なり、民社の場合「女子保護規定の見直し」を打ち出しています。また共産は、平等問題専門家会議の答申に対して、能力差ということで差別を許す危険性があると批判しました。

### ◆パートタイム対策

労基法適用で改善の余地あり、課税限度額の引上げについては一致していますが、その金額は一二〇万円(社)九〇万円(公)一〇〇万円(民)などで、正社員化についての検討も全党が考えています。

### ◆臨調と婦人関係施策

婦人少年局の廃止には反対(自)婦人関係部局は小さいのでカットの対象にされ易い点が問題(社)行革は賛成だが婦人施策の後退は反対(公・民)具体的なしわよせが婦人・家庭にくる点が問題(共)など批判的な点では一致、具体的に婦人団体の支援が求められました。

### ◆家庭科の男女共修もんだい

この点については、五党とも他項目より簡単な説明でしたが、ここではくわしく紹介したいと思います。

自民↓男子選択校を調査中。家庭経営、保育については絶対共修にすべきで、四単位が無理なら、せめて二単位は必修にしたいと考えている。文部省と外務省が一致しないが、外務省を支持している。衣食住は別修にしても前述の領域だけでも必修は実現したい。自民党の婦人問題特別委員長は谷川和穂氏(広島選出)である。男性議員を先頭に立てて運動をすすめるのが有効と考えている。

社会↓文部省はかまわないといっているが、高校長協会の会長がキャンペーンをはっている。「条約」の基本原則にもとるので、教育の場から変えたい。

公明↓文部省は女子必修を一步もひかないが共修を主張していきたい。性差別意識が重く、歪んでいる。「条約」やILOの趣旨からいっても男女ともに家庭科教育が必要。それにつけても家庭科教育の理念を確立し、小・中・高を一貫した人間教育としての家庭科の確立と教師の意識を高める必要がある。

民社↓小・中では男女共修、高校では選択という方針である。男女がともに協力していくということから、家庭の転換期でもある今

日、重視していきたい。

※尚、このあと、高校選択は現時点の考えだが、今後は必修の方向で検討したい、との補足発言が、「会」の質問に対して出されました。

共産↓共修を基本に考えている。文部省は「のり入れ」と「男子選択」でのり切れるといい、外務省と対立しているが、文部省は支持できない。必修か選択かの議論もあるが、現状で必修にするのがよいかどうかについては若干検討の余地を残している。

以上が、各議員の発言内容ですが、五党とも共修に反対の線は全く出されませんでした。法制上の問題でないだけに、鍵は文部省にあることを痛感させられました。また、自民党が共修の内容から衣食住をのぞいていること、中学校の「のり入れ」に対して、どの党の関心もなかったことに最も問題を感じました。

## 婦人関係組織の整理・再編 について申し入れ

臨調第二部会から各省庁に提示された行政組織・制度の再編合理化案として、総理府・婦人問題担当室及び労働省婦人少年局の統合

などが問題になっているとき、驚いた連絡会では、直ちに要望書を関係者に送るとともに、臨調の牛尾、山下委員らと面会して、反対の意向をつたえました。

尚、新任の赤松良子婦人少年局長によれば、中央レベルでの改廃はありえないとの見解で、楽観的でした。そのほか「連絡会」との懇談会で赤松氏は在任中に「条約批准」を実現したいと決意を語られました。

## 優生保護法改訂に対して 反対文書を提出

10月14日及び11月5日の2日にわたって、この問題(第14条1項4号より経済的理由を削除する件)について、厚生省担当官よりの解説と、専門団体からの意見をきく会をもちました。その結果、48団体はこの改訂に反対することで意見が一致しましたので、案文を検討した上で、関係各位に反対の意志表示を行うことを決定しました。この改訂の起案者は生長の家政治連合副会長、村上正邦議員ですが、一〇〇〇万賛成署名を進めるなど油断できない情勢で放置できません。

## 中教審会長、委員を訪問

会長

高村象平さんを訪問

八島 紀子

十一月二日、和田、芦谷、山崎、山下、八島の五人で、第十三期中央教育審議会々長、高村象平氏を訪ねた。

午前十時半、約束通りに、本郷の高村氏宅を訪れ、日当りの良い応接間で約一時間、共修問題を中心に話し合った。

△現在の中教審の様子▽

初めに、高村氏から現在の中教審の状況について話しがあった。  
各教科の教育内容の再検討を始めようとしているところである。国語、社会、数学……と順々にやっていくと、一ヶ月一教科として、家庭科は来年の初夏あたりになるのではないだろうか。

教育内容の答申は再来年になると思う。家庭科の教育内容を検討する時、共修の会の方へ連絡をとってもよい。

そして、「会」にとって朗報と思うがと前置きして、今では家庭科の共修が当り前という考えになっている。家庭科が衣食住だけを取り上げるのではなく、家族関係中心へ内容を検討すべきだと思う。

高村氏は、個人の意見だとしながら、学生時代のナイーブな感覚のうち、夫婦の生き方、家庭生活について学んだ方が良いと思う。これからの家族は、男女で作っていかなければならぬのではないかと。私たちが以前から主張していることと同じ考えで、大変心強く思った。

ただ、共修を即、制度として取り入れることについては、まだ、はっきりした考えを示さなかった。

△話し合いの内容▽

高村氏から、「性」を保健で取り上げ、「妊娠・出産」を家庭科で学習しているが、いっ

しよにできないのかと質問があり、和田さんから、「当然。性教育は男女いっしょに学んだ方がよい。その方が、互いの考えていることや立場が分かり合えて効果が上がる。現在のように、性情報が氾濫していると、いつも学校が取り残されていく。これでは、いけない」と現場の説明があった。

又、山崎さんから、都内の高校で、「家庭・保健」をカリキュラムに取り入れ、効果が上がっていることや、家庭科が料理・裁縫という技術的なものでなく、家族関係を取り入れていく方向にあると話す。高村氏は、授業で教科書をなぞっているのは意味がなく、教科書以外で教える場面が必要であり、その方が教育効果がある。子どもたちは、人間を欲しがっているのだと考える。したがって、共修も現場からどんどん進めていけるのでは……。と話され、私たちに現場の状況を訊かれた。

これに対し、現場では、他の教科（特に体育）が男子を縛っていて、家庭科の共修ができていく。それと、教員の数が少ない、設備が整っていない等、現場の努力だけで共修にするのは非常に困難であることを説明した。

それから山下さんが、「学生時代、下宿で自炊生活をしてきたが、今の高校生を観てい

ると、余りにも人にたよって何もできない」と体験から共修の必要性を語り、芦谷さんは「クッキングクラブに男子が集まりすぎて、選考してクラブ員を決めた。生徒たちは、家庭科を学びたいと思っている」と現実の生徒の動きを話した。

最後に、和田さんから、「今の子どもたちの荒廃はどうなるのでしょうか。家庭の中にはもう教育効果はなくなっているのではないかと学校で、もっと人間を育てることを大切にしていかなければいけない。受験教科より、家庭科の大切さをみなさんに知ってほしい」と意見が出された。そして、中教審で家庭科が取り上げられる時、「会」に連絡をお願いし、もう一度、中教審の方々を訪ねることを約束した。

話し合いの間、とぎれることなく共修を含めた教育問題、教科書のこと等意見が交され、有意義な時間を過ごすことができた。

共修に対して、世論は当然となっているのに、文部省と一部の人たちが反対していることも高村氏は御存知のようでした。

これからも足を運び、私たちの考えをしっかり伝えていくことが大切だと思います。

委員

柏木恵子さんを訪問

中嶋 里美

十一月五日の午後、東京女子大に柏木恵子さんを訪ねた。研究室の前まで来た時、流暢な英語が流れてきたので、先約の外国人のお客様かなと思ひ、しばらくしてからノックすると、柏木さんが電話で話をされていた。

共修をすすめる会でも一度お話ししていたこともあろうし、お電話をいただいたこともあり、とても親近感と信頼の気持ちをもってお話をうかがったり、要望を伝えたりすることが出来た。

柏木さんは教科内容の検討委員の一人で今は月二回位の会合を持ち、会議は来年いっぱい位続く予定と言う。家庭科については必ずしも、学校でやらなくてもいいかもしれないが、女子だけでやるのはおかしいということとをすでに主張されているとのこと。私たちの方からは、男も女も個人として自立していく必要があり、日本の男性達が国際比較の中でも生活的に自立してないことが明らかであ

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

●皆さんの地域ではどんな運動をしていますか？  
しゃいますか？ どんな問題がありますか？  
原稿をお寄せください。（タテ書きで、濃い鉛筆かインクでお願いします）

編集部

## ただ今研究中

全校長、家庭部会

青谷 薫

春の家庭部会総会（5/25）の報告によると、家庭一般の履修問題を大きな問題とくけとめ、全国高校長協会の総会に教育課程の問題とする旨、理事長あいさつの中で言われている。さらに、文部省の方針を「婦人差別撤廃条約が大きい圧力となっているが、教育の論理によって解決すべきである」とし、「人間形成の基を築く家庭科教育は教育課程の問題として、やがて開かれる教育課程審議会にも意見を述べたい」といつている。今まで文部省は教育的配慮といっていたことを受け教育の論理にまで高め（?!）ようと研究中のようである。

今までにも、差別撤廃条約などを家庭部会報に載せているが、今回は、前欧州議会議長シモーヌ・ベイル女史の講演「ヨーロッパにおける婦人の地位」の概要をのせている。また総会の研究協議では、青少年と家庭に関する国際比較調査報告（82・5総理府）について

て朝日新聞記事を資料に、男の子は男らしく女の子は女らしく育てることについて、母親と職業、女性と職業に対する考え方、等の結果を示し、「女らしく育てる」ことについては、全般的に賛成者が多い。女性と職業については、社会の状況による考え方の相違と考察している。

つまりは、「日本の実情から妻が家庭の主たる経営者として、新時代にふさわしい家庭作りをするのは女性としての特権」（傍点筆者）が結論で、そのための理論的根拠を研究中的ようである。

おもしろいなと思ったのは、山口県の校長が、①日本の家庭教育に関する調査を家庭部会で実施しては②女子の体育の時間を割愛しての家庭科教育は問題ではないか③女子教育と家庭科教育を同一に考えてはいけないうという質問と意見を述べているが、それに対する理事長の答えは、①については「慎重に考えた結果」調査対象を家庭科教師約千五百名に、母性、職業観、家庭科教育に関するアンケートを7月実施する（このアンケートは、会報秋号で報告済）というもので、②と③については、何の回答も見解もなかったということである。②と③についてももっと研究してほしいなっ！

### 教科書検定に関して要望書

教科書検定の基準に男女平等問題を入れるようにということは、以前にも文部省に対して要望しましたが、検定基準が大きな問題となっている折柄（やや遅れた感じはありますが）、改めて、文部大臣と教科書検定審議会会長にあてて次のような要望書を送りました。

#### 要望書

教科書検定基準に、次の項目を入れてください。

- 一、男女差別の撤廃、男女平等の促進について配慮すること。
- 二、男女の特性や役割についての固定的な概念の撤廃、男性の家庭運営や育児への参加と女性の社会的労働への参加の促進について配慮すること。
- 三、母性尊重、母性の社会的保障の必要性について配慮すること。

この要望の理由として、差別撤廃条約の第十条と基本精神を尊重すべきことを書きそえました。（梶谷 典子）

## 家庭科の男女共修

ついに

### 主婦雑誌に登場！

樋口 恵子

主婦雑誌といえば、ひところまでは性別役割分業の見本のような変り変り変わったもの、「主婦の友」十一月号ではなんと「『主婦の友』からの提案」として「自立した子、やさしい子にしたかったら、男の子にも家庭科教育を!!」という見出しで、8ページにわたる特集を組んでいるのです。内容は「家庭の中で家事教育を」という段階で、学校教育で出てくるのは小学校の家庭科まで。残念ながら肝腎の中・高における別学・女子のみ問題や差別撤廃条約まで言及していませんが、それでも、現実の流れの変化を大衆の側が肌でとらえている、という感じがします。

また、最近岡山へ行ったら、もと県教育長で、県の婦人問題の委員長である男性、ことが家庭科問題にふれたら、本気で怒りをあらわにしなから「文部省は世界に恥をさらしますよ。ちっとも現実を目を向けないのですか

ら。男子に家庭科の必要をなぜ認めようとなないのか」と語気鋭く力説なさっていました。男性の中にも、わかる人にはわかってきているんです。

### 総合雑誌では

大西 歩

『世界』十一月号（岩波書店発行）の「文部省廃止論」の中で山住正己氏は、アジア諸国からの教科書検定への批判をめぐる文部省と外務省の意見のくいちがいと同様なことが婦人問題についてもあることを紹介、「会」の運動にも触れ、「文部省は、家庭内における男女の役割を固定させ、改善の要なしと見ているのであろう」と、その体質の古さを指摘している。

### 「We」の現状

ますのきよし

We誌はようやく、最初の目標四千部を突破したところである。しかし、来年3月には二年目の予約更新時期が迫っており、果してみんな、ひきつづき定期購読してくれるかどうか

か、特にマスメディアを通じてWeを知った人々の動向がどうなるか、これからがWeの本当の正念場となりそうである。

私は、We誌の応援団にあたる「Weの会」の一員で、毎月15日のWe発送作業に6割程度参加している。Sさんのように参加率10割の人もいれば、Nさんのように、職場から半日休暇をとって来る人もいる。作業はおおよそ10人くらいの手で、午後1時から5時くらいまでかかる。その間の井戸端会議ふうのおしゃべりがなかなか楽しい。いろんな情報がきけるし、あちこちで開かれている読者会のもようもわかる。

読者会は今のところ、武蔵野、神奈川、相模原、城北、埼玉、中野で開かれていて、定期的に集まっている会もあれば、わが中野のように、休み休みやっている会もある。

鳩ノ巣での夏合宿には60人もの参加者があり、内容もバラエティに富んで楽しかった。来年は、はじめに勉強する講演会と、楽しく遊ぶ合宿という具合に、二本立てで「Weの会」の企画が行われることになりそうだ。

人の集団には、とかく対立・反目がつきものだが、その点、Weの周辺は苦勞人が多いせいか、空気がなごやかで気持がよい。男性ももっと入ってくればよいのに、と思う。

## 世話人会報告

△九月一日▽

一、四八団体政府に要望書提出の件

内容 一九八四年のアジア太平洋地域会議を東京で開催すること及び一九八五年以後十年間をひきつづき婦人年とすること。

二、八月二六日のPTA全国集会(武道館)で二〇〇枚のピラマキ(梶谷・中嶋・前田)

三、秋の集会のテーマを決定、講師について検討。

四、全国交流集会の会計報告(石川氏より)

五、婦人連の手帳に共修をすすめる会の住所を入れた旨の連絡あり。了承する。

六、「共学、共修」のことばをめぐって次回に検討。

七、消費者大会にどう働きかけるか。

八、教科書が国際問題化しているが、これと共修の問題をからめるにはどうすべきか。

九、全国交流集会の内容をパンフにまとめ販売する。

十、九月十六日、参議院議員会館で五政党の婦人政策をきく会あり。(中嶋里美)

△九月二十六日▽

会報秋号発送後、世話人会を行いました。

◆報告「連絡会」の「五政党の婦人政策を聞く会」での共修問題についての各党の発言(4・5ページ参照)

◆昨年初めて参加した消費者大会に今年も参加することに決め、消費者リポート誌にもアピル文を送ることにした。

◆十月十六日集会の講師と役割分担を決定。

◆会報を折る作業は印刷所に頼むことにした。

◆新しいパンフレットについて検討。体裁、執筆分担を決めた。(青山和世)

△十月十六日▽

集会のあと、左記の議題で世話人会をもちました。

◆「家庭科、男子にも」の印税から本の代金を差し引いた分を支払いたい旨ドメス出版より連絡あり。

◆婦人連の事務所移転については会館側も移転は避けたいと考えているとのこと。

◆国際婦人年連絡会の報告。総理府婦人問題担当室、労働省婦人少年局廃止反対の要望書を提出。優生保護法改正について報告、反対へ向けて準備をすすめる。赤松良子婦人少年局長との懇談。(5ページ参照)

◆次回冬の集会は公開授業とする(一月)。

◆全国消費者大会の教育の分科会に参加し、共修の必要性について訴える(十一月)。

◆中央教育審議会の高村象平氏に面会し、男女共修実現を強く要望する(十一月)。(小田亜佐子)

△十一月二十三日▽

◎報告事項

◆「連絡会」から、婦人保護費・打切り反対の申し入れを行うこと、女性の参加を高める件について婦人問題担当室との交流を持つこと。

◆婦人団体紹介のための毎日新聞の取材があった。

◆中教審会長、委員との面会(6・7ページ参照)。

◆消費者大会、神奈川県婦人総合センター開館記念事業への参加(11・14ページ参照)。

◆各県の教研集会で共修の実践報告がふえていくこと。

◎討議・決定事項

◆授業参観について(1・16ページ参照)

◆東京都の婦人施策(15ページ参照)に対する要望については次回に検討。

◆教科書検定に関する要望(8ページ参照)

◆「共修」「共学」ということばの使いかたについて(次号に詳細を掲載)(梶谷典子)

## ●新しい世話人を紹介します

渡邊洋子さん・東京学芸大学幼稚園科に在学中です。

山下文明さん・都立野津田高校に勤める英語の先生です。

## 全国消費者大会

### へのとりくみ

小田亜佐子

全国消費者大会は、生協連、主婦連、総評などの団体が実行委員となり、年間の消費者運動の総括を行ない、今後の展望を拓く場として毎年開かれています。大会は初日が分科会、二日目が全体会というプログラムになっていますが、とくに初日の△子どもの未来のために▽という教育の分科会では昨年も、消費者教育重視の立場から家庭科を男女共修にという決議が上っています。生活者としての人間の自立をめざす消費者運動と、共修をすすめる運動との接点にもとづいて、ぜひ今年も大会決議に家庭科の男女共修実現を盛り込み、文部省を動かす世論の力にしようと、今年世話人会として十一月十一日、十二日の

大会参加にとりくむことになりました。

幸い、すすめる会会員の竹内直一さんが、大会の実行委員団体である日本消費者連盟の代表を務めておられる関係で、竹内さんを通じて日本消費者連盟事務局の方々に大会参加についていろいろとお世話いただくことになりました。

日本消費者連盟は、有害商品追放、環境・公害問題などにとりくみ、意欲的な消費者運動を展開している市民団体で、運動の目標のなかでは「消費者教育を幼稚園、学校の中心課程に」「家庭科の男女共修の徹底をはかる」とうたっています。連盟事務局を一度訪ねたほか、何回か電話で分科会参加の方法について教えていただき、また連盟発行の「消費者リポート」に家庭科の男女共修についての原稿を寄せるよう依頼されましたので、喜んで引き受けました(「消費者リポート」十一月七日号掲載)。

十一月十一日の大会当日は、第五分科会△子どもの未来のために▽に、梶谷、青山両世話人が参加し、討論の時に家庭科の男女共修を強く訴える発言をし、分科会決議に「家庭科の男女共修をすすめるよう」を加えてほしい旨提案をしました。参加者の間では、家庭科男女共修は当然で、わざわざ言うまでもな

いという空気が強かったために、決議は「家庭で、学校で、男女とも生活者として自立できる教育を推進させよう」という表現にとどまり、残念ながら家庭科男女共修の字句を盛りこむことはできませんでした。男女共修の必要性について国民の間で広い共通認識がすすんでいることをこの場でも確認することはできましたが、差別撤廃条約をめぐる問題の緊急性についての認識は低く、また「消費者運動と婦人問題は別」という意味の発言もあって、男女平等を狭い範囲の問題としかとらえない考え方もまた根強いことをつくづくと感じさせられました。

文部省を動かす世論の力をつくるためには諸団体との日常的な交流・協力がいっそう求められていると思います。今回も大会当日の短い発言時間では、教科書問題とも共通する文部省の反動的な姿勢など十分に説明することができませんでした。日生協ほか、大会実行委員団体の方のうち一人でも会員になっていただき、その会員を通じてコンタクトをとる、共修について十分に説明・話し合い、その上で、種々の協力をお願いすること。そうした、たとえ細くても丈夫なパイプを何本もつくっていくねばりづよい運動こそが、これから必要とされているのだと痛感します。



## 各地域から

### 熊本県

#### 消費者運動と連帯して

熊本県家庭科サークル  
桑畑美沙子

『きれいな水といのちを守る合成洗剤追放全国集会』が熊本市で10月16・17日行われました。一日目は全体会と記念講演、二日目は六つの分科会で討議が行われました。初日の全体会で約三四〇〇名の参加者という、かなり盛大な集会でした。

私たち、熊本県家庭科サークルの会員も、『環境問題と学校・社会教育分科会』に参加し、『いのちやくらしを守る家庭科を男女共学で』と訴えました。私たちは、これまでも機会を見つけては、家庭科の男女共学の必要性や実践を、いろいろな人に語りかけてきました。市民層からの中広い支援を期待して、広報活動に取り組んできたわけです。しかし、その反応たるや、いつも、いまひとつという

感じでした。それが、今回の合成洗剤追放集会では、快よいと言っている程、いわば連帯の気運までも感じられたのです。その様子を皆様へもお知らせいたします。

私も、分科会で二〇分間の問題提起の機会が与えられました。まず、教科書の内容を紹介しました。そして、教科書に従った家庭科の授業なら、洗濯のやり方をしかも合成洗剤中心のやり方を子ども達は学ぶだけであること、合成洗剤の方が優れていると思わせるような記述が多いこと、しかも、女子に比べ男子は家庭科の学習の機会が少いこと、そこで私たちは『いのちやくらしを守る家庭科を男女共学で』という視点で実践や研究を行っていることを話しました。次に、具体的な実践例（佐川加寿子：男女共学の被服整理、We 9・10月号）によって、合成洗剤にとりかこまれた自分たちのくらしぶりにびっくりし、疑問を抱き始めた子どもたちが、授業の終わりごろになると、自分のくらしの中で石けん製品に切りかえていたり、合成洗剤の危険性は知りながらも使い続けている母親に働き

かけるなど、変化していく様子を語りました。分科会に参加していた人々は、教科書の記述に怒り、『いのちやくらしを守る家庭科を男女共学で』という訴えにうなづきながら聞きっていました。そして、佐川実践の子どもたちの姿を語ったら、大きな拍手がありました。

討議の中で、私たちは『合成洗剤と石けん』について、まず教師に話してみたいこと、次に、こんな内容（注・合成洗剤の問題性）を家庭科の授業で子どもたちにきちんと教えてくださないと教師に頼んでみたかどうか。この折、「先生、こんな実践がありますけど……」と実践例を提示した方が教師も実践に取り組みやすいのじゃないだろうか。そして、次に特に中学生や高校生をおもちの父母の方々は、こんな内容は、男の子にもぜひ教えてほしいと要求をだしたらどうだろう」と教師への具体的な働きかけ方を提案しました。そして、合成洗剤追放を始めとするさまざまな消費者運動と連帯している教育運動として家庭科の男女共学推進運動を位置づけてほしいとも発言しました。

私どものいづれの発言も参加者の同意が得られたようです。なにしろ会終了時に、『We はどうすれば入手できるのですか（佐川実践

のプリントにWeの購入法を併記していたのですが）』と質問はあるし、私たちの実践集（注・熊本の実践集、家庭科教育——平等と平和なくらしを創る——創刊号、希望の方は郵便振替で熊本8-11070、熊本県家庭科サークルあて、一冊一五〇〇円）が56冊も売れるし、『がんばりましょう』と声をかけられるありさまだったのですから。

こんな経験から、男女共学の家庭科を推進していく上で、自分たちが行動することによって社会の問題状況を変えていくという人々に連帯をよびかけると共に、私たち自身が、共学の推進をめざして実践、研究、広報、と行動していくことが重要であると痛感しました。

### 石川県

#### 指導主事と面会

三石 久江

男女共修をすすめる全国交流会から帰って私は、石川県では高校家庭科男女共修はどうなっているのか、また、共修を考えている先生方は何人いて横のつながりはどうなっている

のか、気にしながら現状把握もせず、私事に忙がしく日々を過してしまいました。

私の事を少し書き添えます。私は国際婦人年をきっかけにグループを作り、婦人の意識を足元から見直し、地域社会の中での婦人の意識を深めていく、と同時に高校家庭科男女共修にも目をむけ、更に学校教育の中に差別があるのではないかの観点から教科書の検討もし、また家庭はもとより、特に学校教育の中で正しい男女平等の教育をしなければ、真の男女平等を知り得ないし、男女共に自立できる人間にはなり得ないと考えている者です。グループ作りは困難でしたが、幸にして高校教師の木下雅子さんという頭のきれいな、手きびしい、ファイトある、しかも家庭は完全に自立しあった御夫婦と子供三人を育てている彼女と手を組めました。しかし、彼女をみると男女共修を現場で遂行するには余りにも苦難が多いように見えるのです。例えば、転任々々の連続、その上男女共修ができないように女子校に転任される、その中で人間教育をする時、同じ家庭科の女教師の意識がもたらす態度の影響は大きい、それでも彼女はがんばっているのです。

その彼女と、他校の国語教師の古田励子さんと八月に、石川県教育委員会家庭科指導主

事の河原みづ子氏に逢うことを計画したのです。以前にも逢った事があり余り好感のもてない印象はありましたが話をしてみなければ、ということと逢うことにしたのです。思ったとおり立板に油を流すように話す、そんな中で彼女の一言々々を聞き洩すまいと必死でした。私共が言葉をはさむ隙のない一方的な話し方で延々と六時間余り話しました。話しの内容を整理してみますと、『男女平等という目的は貴女方と同じです』と彼女は強調して繰返し云った。次に『高校家庭科の男女共修は必要なし』、家庭科は男女共選択にすればよい、女子のみ必修も必要なし、しかし、そうならば家庭科の先生、貴女方は困るでしょう、『家庭科の問題は、家庭科の女教師自身の問題である』とのべ、女教師は怠慢である」とつけ加えて云いました。

私共は彼女に、貴女も教育現場に帰られては、と云うと、学校へもどる時は教頭か校長でなければもどる気はない、女性も教頭、校長となり男性と肩をならべるようではなければ男女平等にならない、と云うのです。彼女は私共と話している間も、教師としての立場で話しあうというのではなく権力者として話しているように見えた、また、文部省が女子のみ必修にしたのは家庭科の先生を救うた

めであって、もし女子のみ必修にできなかったら多くの家庭科の女教師は失業でしたよ、と云い切った。今では文部省も女子のみ必修にしなければよかったと思っているでしょう、貴女方は官制教研にも協力しない、ただいたずらにたてついているだけ、女教師はやる気がないのではないか、文部省に反し、現在の家庭科はこれでよいのかを考えてもいない。反対ばかりしては家庭科はよくならないのです、指導要領の通りにやるべきなのに義務違反でもある。半田さんも指導主事までしながら何が不足でやめたのか、等々、云いただけ云って私共の云う事は全く耳に入れない態度であった。

しかし、ふりかえって考えますと、私には河原氏の意見をはねのけるだけの内容が身につけていなかった、力量不足であったと反省はしておりますが、彼女の文部省オンリーの考え方は固定観念で変えることはないと思います。ここで男女共修は大変むづかしいことを知りました。

ところで私は共修をすすめている家庭科の先生(すべてではありませんが)方に御自分の家庭、足元がどうか、まだ疑問なのです。子供達の目はふし穴ではないのです。男女共修をすすめる目的は何なのか、教師自身

理想ではなく現実自立をめざす生活者として、生活面で実行してほしいと願います。

神奈川県

県立婦人総合センター

オープン

一開館記念事業  
に参加して一

半田たつ子

相模湾を一望する江の島に、神奈川県婦人総合センターが開館した。館長は、金森トシエ氏。その開館記念事業が十一月六日から二十一日まで開催されたが、二十日には公開討論会「ふれあい人生パートⅡ男の本音」があり、助言者として参加した。これに先立つ「パートⅠ」は「女の本音」で、いかにも「婦人問題は男性の問題」とうたって、男性も大いに活用を、と呼びかける同センターらしい企画である。

討論会は、国際婦人年世界行動計画神奈川県学習会が昨年実施した「男女平等に関する男性の意識調査」のまとめの報告後、共修をすすめる会会員、皆川鎮枝氏の司会ですすめられた。調査対象は、学習会の会員の身近な男

性ということ、三〇代が中心、また大学卒が六割、公務員が五割という層の偏りはあったが、男性の建前と本音、そして実生活における行動の違いがはっきり出ていた。

参加した男性は数名。しかもほとんど、We、の読者であったので、「男らしさ・女らしさを、良さ」と受けとめたい。男と女がある以上役割分担があていというセンターの男性職員の発言に、男性側から「小さい時から男女ともにしつけられてきている役割分担、その歴史の重みをどう覆えすかそれが問題」との意見が出て、うれしかった。

この調査では「高校家庭科女子のみ必修」に対して、共修賛成五〇・六％、女子必修賛成は二六・六％であった。フリーアンサーに「男は外・女は内」が今は一般的だが、その逆があってもよい。そこまで社会に認めさせなければ、真の男女平等はないと思う」というのがあると思えば「外に出て仕事をし、残業で深夜帰宅するの、いつ妻に協力できるのでしょうか」ともある。「女性は自分に都合のよいことのみ要求している。社会に出なければ子供をつくらなければよい」というのもあり、男女平等への願いが、しみじみと心に響き合うようになるための道の遠さを感じた。

東京都

「国連婦人の10年」

後半期における

東京都婦人関係施策の

あり方について

最終答申

馬場 洋子

婦人問題の解決を図るため「国連婦人の10年」後半期における東京都婦人関係施策のあり方について「東京都知事から諮問を受けた東京都婦人問題協議会(81年二月発足。会長・鍛冶千鶴子氏)が、今年七月に最終報告を打った。78年策定の「東京都行動計画」の一層の推進を図るためのものだが、同報告の「基本的な考え方」では、「後半期における最重点課題は、『婦人差別撤廃条約』の政府による批准と、国会における承認」であると述べている。

「婦人差別撤廃条約」第10条の「同一の教育課程についての機会」「教育のすべての段階及び、あらゆる形態における男女の役割についての定型化された概念の撤廃」に関し、現状の教育は、依然として制度の上でも問題をもっている、と述べ、提言として

「中学校の技術・家庭、高等学校の家庭一

般、保健・体育の履修の機会が、性によって排除又は制限されている現状の改善に努めること。とくに家庭科については、内容の充実と男女共修・必修は不可分の関係にあるので、消費者教育、福祉教育などをさらに積極的に取入れるとともに、教師の研修などを含め、共修・必修の実現にむけて具体策を示すこと。また、男女平等教育の視点にたって現行の学習指導要領を改訂するよう国に働きかけること」をあげ、その提言理由として

「女性にとっても、男性にとっても家庭生活の重要性は明らかであり、とくに最近では男性の家庭生活面での自立が課題になっている。それにもかかわらず家庭科は依然として女性が多く履修するように制度化されている。家庭科の男女共修、かつ必要は、性別役割分業を変革していく基礎であり、家庭生活を男女が協同して行っていくうえに欠かせない。共修、かつ、必修にむけて具体策をたて実行に移すべきである」と述べ、家庭科の男女共修の必要をはっきり打ち出しており、我々にとって心強いものである。

これだけのものが答申されながら、具体的施策でどれだけ反映、実現されていくか、疑問はふくらむ。報告後の協議会としての働きかけをも期待したい。

県、区へ要望書

会報夏号で、「かながわ女性プラン」と「中野の婦人行動計画」、それに足立区婦人問題会議の中間答申についておしらせしましたが、世話人会ではこの内容を検討した上、要望書を送りました。

神奈川県に対しては、「かながわ女性プラン」に明記された男女共修を早期に実現するよう、足立区に対しては中間答申に入っている男女共修が行動計画にも明記され、早期実現に向けて努力が行われるよう要望しました。

中野区に対しては、「中野の婦人行動計画」に共修をすすめる計画が示されていないことは残念。「共修を実施してほしい」という趣旨の要望を出しました。そして、この三つの自治体に共通に、次のことを要望しました。「差別撤廃条約批准促進についても、県(区)として努力すること」「国に対して、家庭科の男女共修をすすめるよう県(区)としても働きかけること」

神奈川県からは努力する旨の回答文書が届きました。(梶谷典子)



## 資料・図書紹介

★会、の新しいパンフができます！

—愛称 グリーン・パンフ—

今夏の初の全国交流会は大成功でした。その理由の一つに、すぐれたレポートが集まったことが挙げられます。共修実現を阻むものは何か、それとどう闘って乗り越えたらよいか、抽象論ではない具体的な各校の実践を整理して、黄、赤、ピンク、オレンジに次ぐ第五のパンフ、グリーン・パンフとして世に出すことにしました。来春には刊行の予定です。どうぞご期待下さい。そして、身近の方たちにご吹聴下さい。このパンフの売行きは、共修実現への道程を縮めるか伸ばすかのバロメーターとなるかもしれません。

(半田たつ子)

★福岡・女性と職業研究会編 現代書館刊

『家事・育児を分担する男たち』

家事・育児を日常的にかなり多く分担している夫たち三三名についての調査を中心に、家事・育児の男女による分担の問題を総合的にとり上げたもの。編者代表は会員の高木葉子さんです。定価は一四〇〇円

★新潟高教組婦人部女子教育問題研究委員会

『家庭科教育に関する意識調査結果』

(1ページ参照)

市販品ではありませんが、残部が二十部ほどありますので、お入用の方は小野塚サチ子

さん(長岡市土合二一八一―七九40)にご連絡ください。送料一七〇円だけが必要です。

(編集部)

一月一八日の  
授業参観に  
参加される方へ

★瑞雲中学校では「技術・家庭」の全面共学を実施しています。ぜひ参考にしてください。

★授業は一〇時三〇分から一十二時二〇分までですが、一〇時に受付をいたします。

★昭島駅は立川から四つめです。駅からの道順は下の通り。

★西武新宿線西武立川下車なさっても結構です。

★会員以外の方でも結構です。どうぞお誘い合わせの上、多数ご参加ください。

